

【事業名】サステナブルファッション・プラットフォーム協議会による地域衣類廃棄ゼロエリア事業

【事業代表者】エイチ・ツー・オー リテイリング株式会社

【共同事業者】青山商事株式会社、Earth hacks株式会社、
大阪府

目的

サステナブルファッション・プラットフォーム協議会と連携し、官民一体となって大阪北摂地域（吹田・豊中・茨木・摂津）での「廃棄衣料ゼロエリア」の実現を目指す。2年間の環境省モデル実証事業の成果を踏まえ、衣類廃棄量および新規生産に伴う環境負荷を低減し、温室効果ガスの削減へと繋げるとともに、地域生活者の衣類資源循環への意識・行動変容を促す大きなムーブメントを創出することを目的とする。

概要

本事業では、北摂地域の人口の約7割を占めるエリアの市役所、公益施設、公園、スタジアムなど、生活導線上に10か所以上の衣類回収拠点を設置。さらに地域のイベントへ出展し、独自のアプリや楽しく学べるコンテンツを活用することで、生活者が行動を起こす際のボトルネックとなっている「認知の壁」「場所の壁」「心理の壁」を総合的に解消し、期間中に約300トンのCO2削減を目指す地域密着型の衣類循環モデル事業。

需要サイドのボトルネック（3つの壁）と本事業による解消方策

ボトルネック

現状の構造的課題

本事業による具体的な解決策

①「認知の壁」

目標：oHOHo CYCLE PROJECTの認知度約20%（現在10%）

行政と民間が「点」での活動に留まり、広報の見え方もバラバラで認知が広がらない。

oHOHo CYCLE共通ロゴを使用し、既存の「ゼロカーボンチャレンジアプリ」と連携し情報発信を統一。

②「場所の壁」

目標：新規回収拠点10か所

日常の生活動線上に回収拠点がなく、「わざわざ」持っていく手間が発生。

市役所、公共施設、公園、地域イベント等に生活導線上360度回収網を構築。

③「心理の壁」

目標：地域イベント出展による体験機会創出5回

捨てる罪悪感はあるが、回収後の行方が不透明なため、具体的アクションに移らない。

Earth hacksの「デカボ」を活用したイベントを展開。信頼ある選別・循環ハブによるリユース率を訴求。

事業実施スケジュール及び補助終了後の取組

R8 / 8月～

事業準備・設置

関係者説明、市内広報、回収ボックス設置、アプリ連携開始。

10月～11月

回収強化・出展

回収強化キャンペーン、地域イベント（FUNKY MARKET等）出展。

R9 / 1月

アンケート実施

oHOHo CYCLE PROJECTの認知度及び生活者の意識・行動変容を測定

R9 / 2月

衣料品回収量集計

期間中の衣類回収量を集計し、CO2削減量による環境保全効果を算出

事業終了後

協議会で完全自主

得られた成果をプラットフォームへ還元し、補助終了後も拡大継続。

官民一体アライアンス実施体制

事務局（代表事業者）

H2Oリテイリング

全体統括・回収拠点設置

共同事業者

青山商事・大阪府
・Earth hacks

拠点増設、行政窓口、デカボ開発

サステナブルファッション プラットフォーム協議会 ファイバーシーディーエム等

日本最大級の高度な選別工場とリユースルートにより、衣類の最大循環を保証。

外部アプリ連携

ゼロ・カーボンチャレンジアプリ

CO2削減効果と行動変容促進目標

温室効果ガス削減効果

300t- CO2 / 期間中

行動変容モデル創出人数

7,500 人 / 期間中

削減試算モデル

期間回収目標：15,000kg（1人平均2kg持ち込み想定）
リユース75%（25.5kg-CO2/kg）+ リサイクル25%（12.75kg-CO2/kg）
= 約334.6t-CO2